
"死"の味

江角 稚

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

”死”の味

【Nコード】

N2913Z

【作者名】

江角 稚

【あらすじ】

少しでも長く付き合っていたら、私達は永遠に結ばれたままで . . .

虚ろな瞳は
私の奥にある、何処か”遠く”を
見ている

どうして、

こうなってしまったのか

未だによく分からない

あー．．．

きっと私、

状況処理能力が皆無なんだ。

じゃなきや、

今の状況を

とっくの昔に受け入れてる。

貴方の中には もう

”私”と言う存在はない

だから、私も

早く忘れなきや

貴方を・・・忘れなきゃ

別れたその日の内に
死んじゃうって、どうよ？

・・・冗談だって、
思いたかったよ。

貴方が死んだことも。
貴方と別れたことも。
何もかも。

・・・違う。
それでいて、
貴方に愛された日々だけは
どうしても、忘れたくない。

甘い記憶を失えば、
その分
生きる糧を失うのが、
目に見えてるから。

”空虚”を映し出す
貴方の瞳は黒く
私のも
どんな些細な光でさえも

吸い込まれて
飲み込まれてしまいそうで

．．．痛かった、よね。
トラックにぶつかって

怖かったよね。
”生きたかった”のに、
死んじゃうなんて。

あの日、
夢を追い掛けるために
本気で夢と
向き合うために

貴方は、
私に、

別れを告げました。

消えゆく命。
儂くて。
まるで幻。

黒い瞳の貴方に送る、

最後のキスは

冷たくて、

．．．哀しかった。

”死”の味。

そんな気がした。

あの日。

もしも別れずに済んでいたら、

私達は．．．

永遠に

愛し合っていたらのに

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2913z/>

“死”の味

2011年12月10日10時49分発行